

チーム上田から オール東弁へ

穏やかな滑り出し

副会長に就任し、あっという間に5か月が経ちましたが、予想以上に穏やかな滑り出しであったと感じます。これも、前任者による丁寧な引き継ぎと、会務経験の乏しい私に日々指導・助言をくださる事務局長・次長の存在、そして、当会が果たしてきた公益的な役割を理解し、自らもその一端を積極的に担おうとされる職員一人ひとりのご協力の賜物です。

紙面をお借りして御礼申し上げます。

副会長の業務

副会長の一日は、決裁に始まり決裁に終わると言っても過言ではありません。担当委員会にかかわることはもとより、担当外の様々な稟議事項に日々向き合い、それなりのスピードで判断を下すことが要求されます。知らないことも多く、キャパの限られた脳をフル回転させなければ、円滑な理事者業務は覚束ないといえます。

時には海外からの来賓の接遇、裁判所、検察庁、警察公安関係者との会合、隣接士業との意見交換の機会などもあります。そして、そのたびに、トップ・バーである当会に対する期待の高さを感じます。

チーム上田の一員として

理事者室における私の拠り所は、会長と筆頭存在です。上田会長には、就任当初から温かく見守っていただいております、また、業務の面では、二瓶筆頭副会長に余りにも多くを担っていただいております。

また、4人の同僚副会長（それに、2人の監事）とのセッションには、毎々目を開かれる思いです。皆さん会務経験が豊富で、知識も桁外れです。そして、思慮深くありながら、一言ある方ばかりです。ゆえに、理事者会での議論は毎回白熱し、一体どこへ行ってしまおうのか？

副会長 町田 行功（49期）

主な担当業務：紛争解決センター、住宅紛争審査会、外国人、民事介入暴力対策、公害・環境、紛議調停、不服審査、国際、中小企業センター、業務改革、業務妨害、税務、弁政連、会員サポート、情報システム、個人情報等



と心配になることもしばしばです。でも、そこはバランス感覚の優れた皆さんのこと、なぜか、落ち着くべきところに落ち着くのが常です。そんな議論が心地よい疲労感となっているのか、帰宅後は実によく眠れます。

財務的制約の中で

さて、当会が抱えている課題は、例えば、2028年の業務システム刷新、会館の大規模修繕、会館セキュリティ問題、委員会活動や広報（キャラクター活用を含む）の充実、国内外における当会のプレゼンス確保など多岐にわたりますが、これらは全て、財務的制約の存在を抜きにして語ることはできません。

しかし、だからと言って、当会でなければ成しえず、市民からの信頼の源となっている幅広く、厚みのある人権活動や、多様な価値観が共存し、法の支配が隅々まで及ぶ包摂的で公正な社会の実現に向けた会員の諸活動が、制約を受けたり、継続の危機に晒されたりすることがあってはなりません。

オール東弁を目指して

かように財政的に窮屈な中であればこそ、私たちチーム上田は、会員や職員の意見をより一層どん欲に求め、謙虚な気持ちでそれらに耳を傾けつつ、知恵を絞り、柔軟な発想をもって、課題克服に向けて努力を尽くさねばなりません。

しかし、単年度理事者のできることに限りがあることも事実です。

なので、“今こそ、チーム上田からオール東弁へ！”

会員、職員の皆様、どうか当会の持続可能性により一層の関心をお寄せいただき、更なるご協力と叱咤激励を宜しく願いいたします。

それでは、理事者室でお待ちしております。